

# ウニの体のつくり

ウニの中身は、<sup>しょうかかん</sup>消化管と<sup>せいしよくそう</sup>生殖巣が大部分を占めています

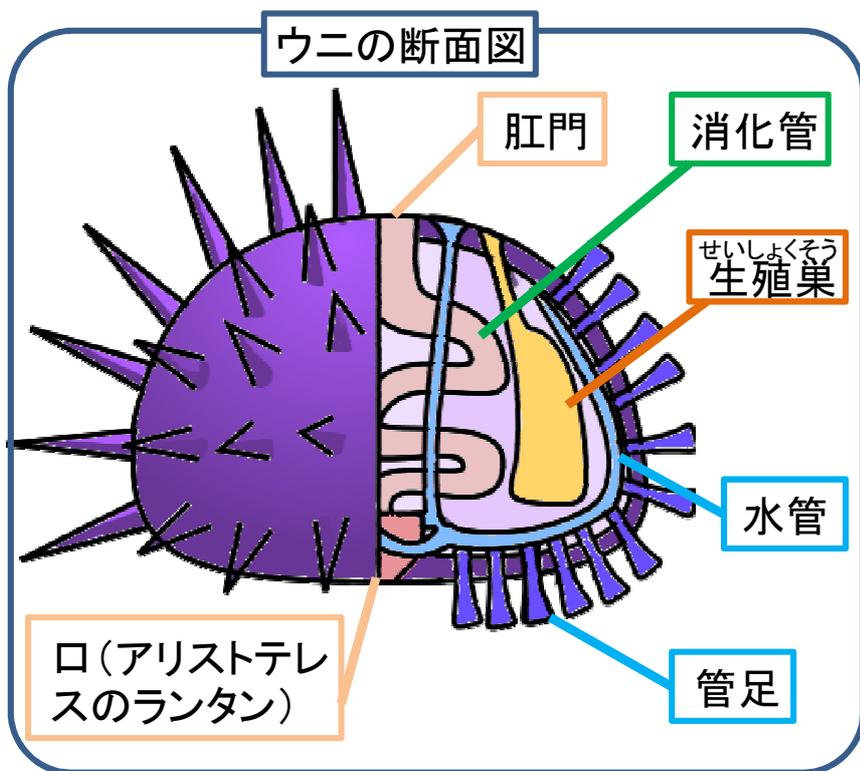
ウニの中身を見ると、背中側が肛門、腹側が口になっていて、口のところにはアリストテレスのランタンがあります。

消化管が体の中央を通り、その周りに<sup>せいしよくそう</sup>生殖巣があります。私たちが食べているのはこの生殖巣の部分です。

水管からは<sup>かんそく</sup>管足がでており、移動したり壁に張り付くときなどに使います。

ウニの仲間は多くが<sup>しょくしょくせい</sup>植食性で、主に海藻を食べています。しかし、一見おとなしそうな彼らは非常に<sup>おうせい</sup>旺盛な食欲の持ち主で、食事スピードはかなりの速さです。その食欲を支えている特別な構造がウニの口にあります。

ウニの口には五枚歯の強力な<sup>そしやくき</sup>咀嚼器(口器)がついています。ギリシャの哲学者アリストテレスがランタンの形に似ていると本で紹介したため、「アリストテレスのランタン」と呼ばれています。かなり<sup>がんじょう</sup>頑丈なので、固いものでも食べることができます。



ウニの口  
(アリストテレスのランタン)



横から見たところ



口側から見たところ